

令和5年度 第1回 荒尾市地域づくり推進委員会 議事要旨

日 時：令和5年9月27日（水） 午前10時～正午

場 所：荒尾市役所 市長公室

出席者：（荒尾市地域づくり推進委員会委員）

熊本県立大学 教授 澤田 道夫 委員

女性ネットワーク荒尾 委員 弥山 照代 委員

荒尾市小中学校校長会 平井小学校校長 吉永 鈴子 委員

社会福祉法人 荒尾市社会福祉協議会 事務局長 塚本 雅之 委員

荒尾市地域学校協働本部 地域学校協働活動推進員 田添 美奈子 委員

荒尾市自主防災組織連絡協議会 会長 宮崎 司 委員

荒尾市地区協議会会長会 会長 河部 啓宣 委員

※欠席者 市民公募委員 田中 加代子 委員

事務局：市民環境部 片山部長

荒尾市くらしいきいき課 田中課長、渡邊課長補佐、梅井参事、岡元、
富重

1. 開会

田中課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2. 委嘱状交付式

委員7名に委嘱状の交付を行った。

3. 市長挨拶

本日は大変お忙しい中、荒尾市地域づくり推進委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には日頃から市政の運営に関しまして、御協力をいただいておりますことに重ねて御礼申し上げます。

さて、本市では、平成24年度に、協働の地域づくり推進条例を施行いたしまして、旧小学校区単位（12地区）に地区協議会を設立し、行政と地区協議会と協働のまちづくりを推進してきました。また、地域の特性を生かした地域づくりを推進していく上で、令和元年度から地区担当職員制度を発足し、地域の皆さんと一緒に地域の課題解決、地域の特性を生かした地域づくりを進めているところです。新型コロナウイルスの影響でここ数年、地域活動も停滞し、地区担当職員もなかなか活躍することができませんでしたが、少しずつ再開しつつあるので、市民の皆様と行政が協働で同じ方向を向いて荒尾市が更に

良くなるような活動に取り組んで参りたいと思います。

本日は、荒尾市の地域づくりの取り組み・現状について検証・ご助言をいただき、荒尾市の持続可能な地域づくりを進めていくため、忌憚のないご意見をいただければと思います。

4. 委員紹介

事務局から当委員会の委員について別添の出席者名簿に基づき、紹介を行った。

5. 会長・副会長選任

荒尾市地域づくり推進委員会規則第 4 条に基づき、会長、副会長の互選を行った。

委員の自薦・推薦がなかったため、事務局案として、会長に熊本県立大学教授の澤田委員、副会長に荒尾市社会福祉協議会の塚本委員の就任を提案し、承認された。

◇会長挨拶（澤田会長）

本日は、委員の皆様から貴重なご意見を頂戴し、これからの荒尾市の地域づくりを考えていきたいので、よろしく願いしたい。

6. 議事

議事（1）「地域づくり推進委員会の概要について」、議事（2）「協働の地域づくり活動方針について」事務局から配付資料（資料1、資料2）に基づき説明を行った。

《主な意見・質問など》

○荒尾市公式 LINE の登録者数は何人程度いるのか。また、地区協議会の情報発信は主に誰が発信しているのか。（澤田会長）

⇒現在の登録者数は約 1 万人で、地区協議会の情報発信は主にくらしいきいき課職員で行っている。（事務局）

○荒尾市はこれまで幸いなことに大きな災害はない。令和 2 年の 7 月豪雨を契機に防災に対する考え方が大きく変わった。本日の配布資料 2 の 8 ページに「地域防災力の強化」をテーマにされているので、ぜひ行政・地域と連携して取り組んでいただきたい。（宮崎委員）

議事（3）意見交換

資料2について、地区協議会の課題や今後の展望などについて各委員からご意見をいただき、意見交換を行った。

《主な意見・質問など》

○弥山委員

- ・自分が住んでいる地区の子ども会が最近無くなった。地域コミュニティに対する意識低下や、両親共働き世帯が増えて子ども会の活動維持が困難となった。しかし、子ども会は無くなったが、社協と連携して子どもサロンを設立して、食事会やゲーム大会など年に2から3回開催している。

○吉永委員

- ・平井校区の恒例行事となった「史跡探訪ウォーキング」は、学校との共催で行うと児童の保護者や祖父母が参加するので参加者が400人ほどになった。しかし、地域行事として行っていた頃は、参加者は少なかったと聞いている。また、地域で防災イベントを行った際は、参加者のほとんどが関係者で、一般の参加者は少なかった。児童が地域行事に参加することで、とてもよい学習になるし、地域の方にも喜んでいただけるので、今後も共催行事をやっていきたい。一方で、教員の人材不足のために学校自体の体力が落ちており、どの学校でも苦勞しているのが実情である。
- ・学校が地域連携の核となることを目指し、平井地区協議会の会議は平井小学校で行っていただいている。
- ・平井小の空き教室などを利用して地域連携ができないかと考えている。子育てを頑張っている若い親御さん同士や地域のベテランお母さんなどが集うなど、地域住民の交流の場になればいいと思う。そこに児童も参加させることで学びになる。

○田添委員

- ・ボランティア活動をされている方々は、毎日どこかで活動されており非常に助かっている。
- ・みどりまつりや音と光の祭典など子どもたちが企画・運営に携わっている地域行事が多数ある。定期的に保護者と子どもたちに地域活動に関するアンケートを実施し、保護者より子どもたちの方が郷土愛を感じる。

○宮崎委員

- ・最近は、子ども会や民生委員など組織自体が弱体化している状況。地域住民のコミュニティに対する考え方から見直す必要があると感じる。
- ・特に区長の担い手不足なので、市役所 **OB** がもっと介入すべき。

○河部委員

- ・各地区協議会で地域の特性を生かしながら活動を行っている。昨年度、自主防災組織連絡協議会を設立されているが、地区協議会と連携して防災に取り組まれている地区がある一方で、別団体で取り組まれている地区もある。
- ・地区協議会は、コミュニティスクールやお祭りなど小学校との接点はあるが、中学校との連携があまり出来ていない状況。
- ・荒尾市では区長会を実施していない。月1回、行政協力員の役員会は実施されており、区長と行政協力員を兼務されている方は、市との情報共有できるが、兼ねていない地域も多数あり、市の方で区長会を検討していただきたい。
- ・令和元年度に地区担当職員制度が始まったが、あまり機能していないように思う。くらしいきいき課の職員は頑張っているが、地区担当職員の業務内容が分かりにくい。

○塚本副会長

- ・コロナ禍でサロン活動や健康体操などほとんどが中止。今年度からコロナの位置付けが2類から5類になったことにより、地域活動も活発になってきた。コロナ禍で開催期間が空いたので、ふたたび一から取り組んでいる地域もある。
- ・社会福祉協議会は、地域主催のイベントを地域の方々と共に立案、サポート、活動経費の助成などを行っている。
- ・リーダーに負担感を感じさせない地域づくりを行うことが大切。

○澤田会長

- ・地域担当職員制度の再構築
⇒地区担当職員制度の在り方、地区担当職員との連携
- ・地区協議会と学校との共催のイベントの開催
⇒地域活動の参加者から役員の手不足の解消に繋がる仕組みづくり

7. その他

市民環境部片山部長から挨拶を行った。

お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございました。地区協議会も設

立して、10年以上が経過し、人材不足や組織の弱体化など様々な課題が出ている状況です。最近では防災について関心が高まっており、地域の繋がり、住民とのコミュニケーションを取ることで防災力の向上にも繋がると思います。

本日頂いた貴重なご意見については庁内で検討を行いまして、荒尾市の協働の地域づくりの推進に努めてまいります。

8. 閉会

田中課長が閉会を宣言した。

なお、議事録要旨については、委員の確認を得た上で、荒尾市ホームページに公表することとした。